

信頼こそ、  
私たちの資産。

**Amundi**  
ASSET MANAGEMENT  
アムンディ アセットマネジメント

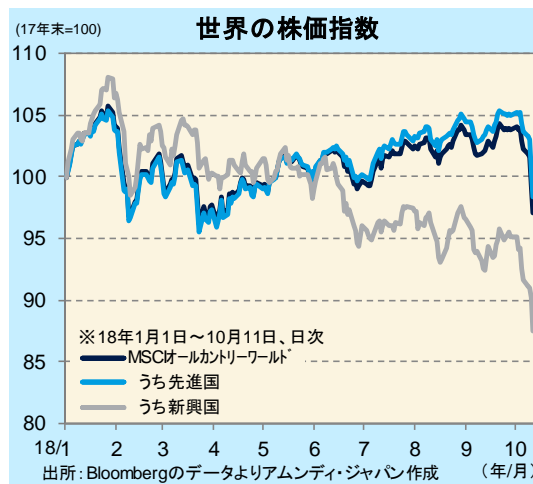
# アムンディ・マーケットレポート

## 株価急落と今後の市場環境、運用スタンスについて

- ① 先進国中心に楽観論が広がっていましたが、金利上昇、貿易摩擦等の不安要素が表面化した形です。
- ② 今回の急落は一時的な動きと見ていますが、よりリスクを重視すべき投資環境になっていると考えています。
- ③ 資産分散を十分心がけると同時に、株式には依然ポジティブですが、バリュー重視が適当と考えます。

### 2月の急落局面との違いは？

10月10日、米国株式が、前日比3%を超える急落となり、世界的に株価が急落しました。世界の株式市場は、先進国中心に景気に対する信頼感が高まる中、好調な企業業績を背景に底堅く推移してきました。一方、米国で利上げが進み、長短金利が上昇する中、新興国経済に対する先行き不安がくすぶり、さらに米中の貿易摩擦が激化し、世界的に経済活動の停滞が懸念されていました。こうした、市場心理と実体経済の先行きに対する不安要素が徐々に強まってきたこととのずれが、ここにきて表面化した形です。



株式	世界		
	先進国		-6.4
	新興国		-8.0
	TOPIX		-6.3
	S&P500		-6.4
	Stoxx欧600		-6.1
	上海総合		-8.4
国債	先進国		-0.7
	新興国		+0.0
投資適格債	米国		-0.6
	欧州		-0.2
ハイールド債	米国		-1.1
	欧州		-0.5
REIT	日本		-0.6
	うち先進国		-5.3
	欧州		-4.7
	新興国		-1.3
金			+2.6
原油			-3.1

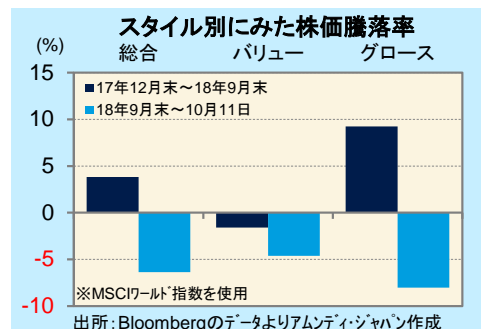
※世界株式：MSCIオールカントリーワールド指数、先進国株式：MSCIワールド指数、新興国株式：MSCIエマージング指数、先進国国債：FTSE世界国債指数(除日本)、新興国国債：J.P.Morgan GBI EM Diversified Index、米国投資適格債：ブルームバーグ・バークレイズ米国投資適格社債インデックス、欧州投資適格債：ブルームバーグ・バークレイズ・ユーロ社債インデックス、米国ハイールド債：ICE Bof AML US High Yield Constrained Index、欧州ハイールド債：ICE Bof AML European Currency High Yield Constrained Index、日本REIT：S&P日本リートインデックス、米国REIT：S&P米国リートインデックス、欧州REIT：S&P欧州リートインデックス、新興国REIT：MSCI新興国リートインデックス、金：Bloomberg、原油：WTI、現地通貨建て。

今年も、2月にも米金融政策の引き締め強化に対する不安感から、世界的に株価が急落する局面がありました。今回も基本的な形は似ています。ただし、米国の利上げ継続によって、景気循環がピークにより近づいていることは異なる点です。世界の景気自体はまだ好調であり、今回の急落は一時的なものとして見えますが、よりリスクに敏感な局面となっており、資産分散が以前にも増して重要になっていると考えます。ちなみに、9月末からの各資産の動きをみると、リスクの小さい債券が底堅く、特に、リスク回避指向が急激に強まった際に優位とされる金が堅調でした。

### 株式自体もリスク重視へ

また、株価の動きも、よりリスクが重視されるようになりつつあります。スタイル別の株価を見ると(9月末以降)、グロース株(業績の成長性の高い銘柄)が-8.0%、バリュー株(企業の本来価値に対して株価が割安な銘柄)が-4.6%と下落率に差が出ています。

両者は、17年末から18年9月末まではそれぞれ-1.6%、+9.2%と、グロース株が大幅なプラスで、バリュー株は伸び悩んでいました。景気循環がよりピークに近づくと、株式市場自体の動きもリスク回避的になってくるため、セクターや銘柄を精査した上でのバリューを重視した運用スタンスが適当と考えます。



#### 本資料のご利用に当たっての注意事項等

本資料は、アムンディ・ジャパン株式会社が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものです。  
本資料は、本資料に含まれるいかなる金融商品の販売や媒介を意図、または購入あるいは売却を勧誘する目的で作成されたものではありません。

本資料は法令に基づく開示資料ではありません。

#### 投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に次の手数料・費用をご負担いただきます。その料率は投資信託によって異なります。さらに、下記以外の手数料・費用をご負担いただく場合、一部の手数料・費用をご負担いただかない場合もあります。詳細は、投資信託説明書(交付目論見書)・契約締結前交付書面をご覧ください。または、販売会社へお問い合わせください(カッコ内には、アムンディ・ジャパン株式会社が設定・運用する公募投資信託のうち、最も高い料率を記載しています。)

投資信託の購入時: 購入時手数料[最高料率3.78%(税込)]

投資信託の換金時: 信託財産留保額[最高料率0.3%]

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)[実質最高料率2.2312%(税込)]、監査費用

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等を間接的にご負担いただきます。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の手数料・費用が掛かることがあります。

※上記の費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

本資料は、特定のお客様の特定の投資目的および財務状況または要望を考慮して作成されたものではありません。

本資料に記載した弊社の見通し、予測、予想意見等(以下、見通し等)は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また、見通し等や過去の運用実績を含むいかなる内容も、将来の投資収益等を示唆または保証するものではありません。

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性、完全性について保証するものではありません。

本資料に記載されている内容は、全て本資料作成日以前のものであり、今後予告なしに変更される可能性があります。

弊社は、本資料に含まれる情報から生じるいかなる責務(直接的、間接的を問わず)を負うものではありません。

弊社の許可なく、本資料を複製または再配布することはできません。

#### リスクについて

・金融商品等の投資にあたっては、市場動向等、また投資信託等へ投資する場合にはその裏づけとなっている金融商品等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

・金融商品等の発行者または保証会社等の業務や財産の状況に変化が生じた場合や、裏付け資産の発行者または保証会社の業務や財産の状況に変化が生じた場合、金融商品等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

・デリバティブ取引においては、預託した証拠金を担保として、証拠金を上回る多額の取引を行うことがありますので、相場の変動の要因等により生じた損失の額が証拠金の額を上回る(元本超過損が生じる)ことがあります。

投資した資産価値の減少を含むリスクは、投資信託を購入のお客様が負うこととなります。

投資信託は預金、保険ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関を通じて購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象とはなりません。

お申込みの際は、投資信託説明書(交付目論見書)・目論見書補完書面等をお渡しますので、必ず内容をご確認のうえご自身でご判断ください。

販売会社店頭へ投資信託説明書(交付目論見書)をご用意しております。

投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフの適用はありません。

アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第350号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、

一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

<R1810064>

## このページは、販売会社である新生銀行によるご留意事項となります。

### 投資信託一般について

- 投資信託は、預金ではなく、元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- 投資信託は預金保険制度の対象ではありません。また、新生銀行が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 投資信託は主に国内外の有価証券に投資しますので、以下に列挙するリスクや国内外の政治経済状況等の変化等により、基準価額（外国籍投資信託の場合、純資産価格）が変動し、投資元本を割り込むことがあります。過去の運用実績は、将来の運用成果を約束するものではなく、運用の利益および損失はすべて投資信託をご購入いただいたお客さまに帰属します。
  - 価格変動リスク：株式、公社債など値動きのある有価証券を組入れて投資することによる基準価額の変動リスク。
  - 為替変動リスク：外国の株式や公社債などの有価証券などを組入れて投資を行う場合の、為替相場の変動の影響による基準価額の変動リスク。外貨建て投資信託の場合、外貨建てでは投資元本を割り込んでいない場合でも、為替変動により円換算ベースでは投資元本を割り込むことがあります。
  - 発行者（または保証会社）の信用リスク：組入れ有価証券の発行者（または保証会社）の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部機関の評価の変化やその他の信用状況の変化等の影響に基づく基準価額の変動リスク。
- 投資信託には以下の通りお客さまに直接、または間接的にご負担いただく手数料や費用があります。
  - お申し込み時…申込手数料（国内籍投資信託は約定金額に対して、外国籍投資信託は申込金額に対して税込最大 3.24%）がかかります。
  - 運用期間中…信託報酬・管理報酬（純資産総額に対して年率・税込最大 3.0%）がかかるほか、その他信託期間中に発生する費用（組入れ有価証券の売買委託手数料、監査費用、成功報酬、投資先ファンドにかかる費用等があり、運用状況等により変動するため、事前に料率および上限額を示すことはできません）がかかります。
  - 換金時…信託財産留保額（基準価額に対して最大 2.0%または一万口あたり最大 300 円）や買戻し手数料（当初募集価額に対して最大 5.0%）がかかります。

これらの手数料等の合計額については、ご購入ファンド、ご購入金額、その運用状況、お客さまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。ファンドごとに手数料や費用は異なります。各ファンドの手数料・費用等の詳細は契約締結前交付書面（目論見書および目論見書補完書面）でご確認ください。

- 投資信託のご購入・換金にあたって円貨から外貨または外貨から円貨へ交換する場合には、上記手数料・費用のほか、当行の定める為替手数料がかかります。
- 投資信託の換金（解約・買取）については、ファンドによってクローズド期間（換金することができない期間）が設定されているものや特定日にしか換金の申し込みができないものがあるほか、換金までに相当の期間がかかることがあります。
- 投資信託をお申し込みの際には、あらかじめ最新の契約締結前交付書面（目論見書および目論見書補完書面）の内容を必ずご確認ください。お客さまご自身でご判断ください。
- 目論見書および目論見書補完書面は、店頭や郵送で入手いただけるほか、新生パワーダイレクトでもご確認いただけます（店頭で取り扱いのないファンドの目論見書および目論見書補完書面は新生パワーダイレクトでご確認ください）。なお、投資信託の取り扱いのない店舗ではご用意しておりません。
- 交付目論見書と請求目論見書が分冊となっている場合、請求目論見書はご請求いただいたお客さまにお送りしております。新生パワーコールまでご連絡ください。
- 投資信託のお申し込み・換金等のお取り扱いは新生銀行、設定・運用は投資信託委託会社、信託財産の管理等は信託銀行が行います。

[2016年7月1日現在]

販売会社：株式会社新生銀行  
登録金融機関：関東財務局長（登金）第 10 号  
加入協会：日本証券業協会・一般社団法人 金融先物取引業協会